



## 生産栽培技術の画一化

### (一) 草生栽培

傾斜地は全部草生栽培に依って、土壤の流失を防いでいる。

### (二) 施肥

味の統一を計るため、園芸連創設の葡萄化成に依り画一栽培。

### (三) 剪定指導

県果樹分場並に県改良課及県園芸連の指導部、技術陣を御願ひして、各撰果場別単位に、各戸より一～二名宛実地指導を受けて、画一的指導を徹底。

### (四) 芽欠指導講習

前記剪定指導同様に、適当に画一出来る様指導。

### (五) 薬剤撒布

県園芸連選定の防除暦を基本に、地区内宿にモデル地区を設定（県より施設補助を受けて）して、ビニール管を施設して一度に八噴口の使用が可能で、三町歩余を僅か二時間程度で完了。

模範的に施設を完備。撒布の時期、濃度、回数、分量等は其の時々、園芸情報に依って、全地区内に徹底実施。共同モデル地区の薬剤代二、五〇〇円程度。



(六) 花房の切り込み

全生産の八割は県外出荷を目標の輸送園芸の立て前から花房の形状が荷痛みに直接関係が有るので、堅房に仕上げる関係上、円筒形に花房の肩の切り込み、房丈けの切り込み等量目も百匁（ひゃくもんめ：375g）内外を目標に開花前に指導。

(七) 粒間引

大体百匁内外の堅房を理想として、一房七〇～八〇粒に粒の間引きをして、粒の大きさを揃えている。

(八) 紙袋掛け

八月十五日以降の出荷分に対しては、新聞紙の袋掛けを励行して、品質統一を計っている。八月十五日以後の無袋品は格外品。